

令和7年産水稻の10a当たり平年収量 に係る生産事情（都道府県別）

大臣官房統計部

令和7年3月13日

農林水産省

令和7年産水稻の10a当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情
	品種構成等
北海道	○「ななつぼし」及び「ゆめぴりか」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。
青森	○「まっしぐら」を中心とする品種構成となっている。「青天の霹靂」、「はれわたり」が増加傾向となっている。
岩手	○「ひとめぼれ」、「銀河のしずく」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。 ○県のオリジナル品種である「銀河のしずく」が、耐冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。
宮城	○「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。
秋田	○「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。
山形	○「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。 ○新品種「雪若丸」は増加傾向にある。
福島	○「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。 ○近年、収量水準の高い「天のつぶ」が定着している。
茨城	○「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。 ○近年、多様な多収米への作付け移行が進んでいる。
栃木	○「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。 なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。
群馬	○「あさひの夢」、「コシヒカリ」、「ゆめまつり」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。
埼玉	○「コシヒカリ」、「彩のかがやき」及び「彩のきずな」を中心とする品種構成となっている。 ○近年、収量水準の高い「彩のきずな」への転換が進んでいる。 ○業務用の多収性品種が増加している。
千葉	○「コシヒカリ」、「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成となっている。 ○令和2年産から新品種「粒すけ」の本格栽培が開始
東京	○「キヌヒカリ」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。

令和7年産水稻の10a当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情
	品種構成等
神奈川	<p>○「はるみ」、「キヌヒカリ」を中心とする品種構成であるが、近年、「はるみ」が増加傾向にある。</p> <p>○「てんこもり」が令和3年に県の奨励品種に採用された。</p>
新潟	<p>○「コシヒカリ」、「こしいぶき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきん子舞」、「つきあかり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。</p> <p>○県では新品種「新之助」（晩生種）の作付拡大を推奨している。</p>
富山	<p>○「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温登熟でも品質が安定している「てんたかく」及び「てんこもり」、県のトップブランドに位置づけている「富富富」が増加傾向にある。</p>
石川	<p>○「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成である。</p> <p>○近年、県オリジナル新品種の「ひやくまん穀」が増加傾向にある。</p>
福井	<p>○「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成である。</p> <p>○なお、新品種である「いちほまれ」が増加傾向にある。</p>
山梨	<p>○「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</p>
長野	<p>○「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p> <p>○県のオリジナル品種「風さやか」の導入を推進している。</p>
岐阜	<p>○売れる米づくりと高品質安定生産の面から、「ハツシモ」、「コシヒカリ」は一定の作付けが維持される一方、「ひとめぼれ」及び「あさひの夢」が減少傾向にある。</p>
静岡	<p>○「コシヒカリ」、「きぬむすめ」及び「あいちのかおり」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向にあり、「あいちのかおり」が減少傾向にある。</p>
愛知	<p>○「コシヒカリ」及び「あいちのかおり」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p>
三重	<p>○「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p>
滋賀	<p>○「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「みずかがみ」及び「日本晴」を中心とする品種構成である。</p> <p>○近年、高温登熟性に優れた「みずかがみ」の作付けが推進されている。</p>
京都	<p>○「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</p>

令和7年産水稻の10a 当たり 平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生 産 事 情
	品種構成等
大 阪	○「ヒノヒカリ」、「キヌヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。
兵 庫	○「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」、「キヌヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。 ○「きぬむすめ」の作付拡大を推進している。
奈 良	○「ヒノヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。
和歌山	○「キヌヒカリ」、「きぬむすめ」、「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。なお、近年「きぬむすめ」、「にじのきらめき」が増加傾向にある。
鳥 取	○「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成である。「星空舞」が増加傾向にある。
島 根	○「コシヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成であるが、近年、「コシヒカリ」が減少傾向、「きぬむすめ」及び「つや姫」が増加傾向にある。
岡 山	○「アケボノ」、「きぬむすめ」、「コシヒカリ」、「あきたこまち」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。
広 島	○「コシヒカリ」、「あきさかり」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。
山 口	○「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成であるが、近年「きぬむすめ」及び「恋の予感」が増加傾向にある。
徳 島	○「コシヒカリ」及び「あきさかり」を中心とする品種構成である。
香 川	○「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」、「あきさかり」及び「おいでまい」を中心とする品種構成である。
愛 媛	○「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」、「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。 ○「ヒノヒカリ」から「にこまる」、「ひめの凜」への品種変更が定着してきている。
高 知	○早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。

令和7年産水稻の10a 当たり 平年収量に係る生産事情（都道府県別）

生 産 事 情	
品種構成等	
福岡	○「ヒノヒカリ」、「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「元気つくし」が増加傾向となっている。 ○県では、「実りつくし」の拡大を推奨している。
佐賀	○「さがびより」、「夢しずく」、「ヒノヒカリ」及び「ヒヨクモチ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。
長崎	○「ヒノヒカリ」、「なつほのか」及び「にこまる」を中心とする品種構成である。 ○県は「なつほのか」を奨励品種としており、増加傾向にある。
熊本	○「ヒノヒカリ」、「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。 ○「くまさんの輝き」はリーディング品種として取扱いが年々拡大している。
大分	○「ヒノヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。 ○「なつほのか」への作付け誘導が進められている。
宮崎	○「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。 ○「み系358」への作付け誘導が進められている。
鹿児島	○早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。 ○早期栽培では、収量水準の高い「なつほのか」への移行が急速に進んでいる。
沖縄	○「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。